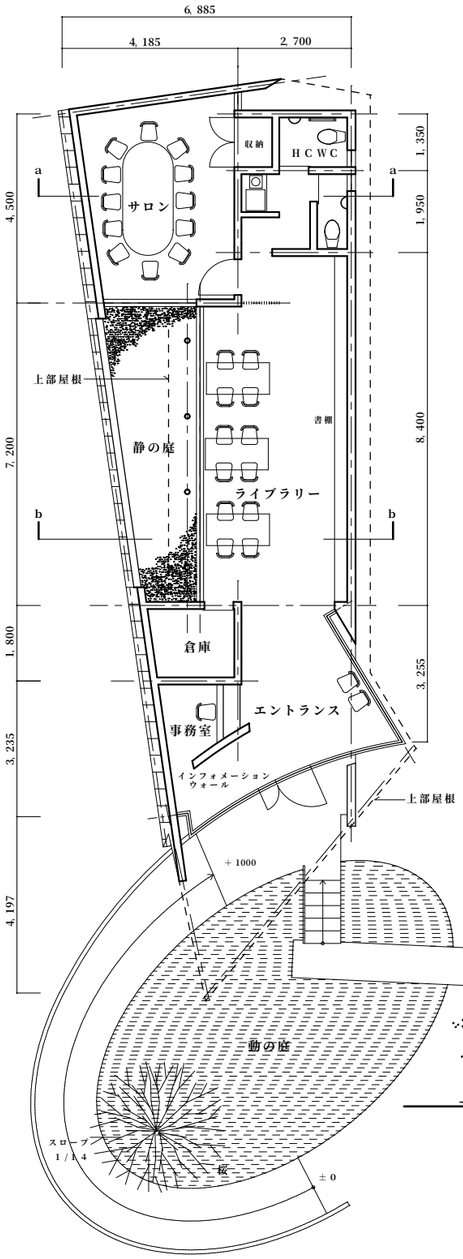
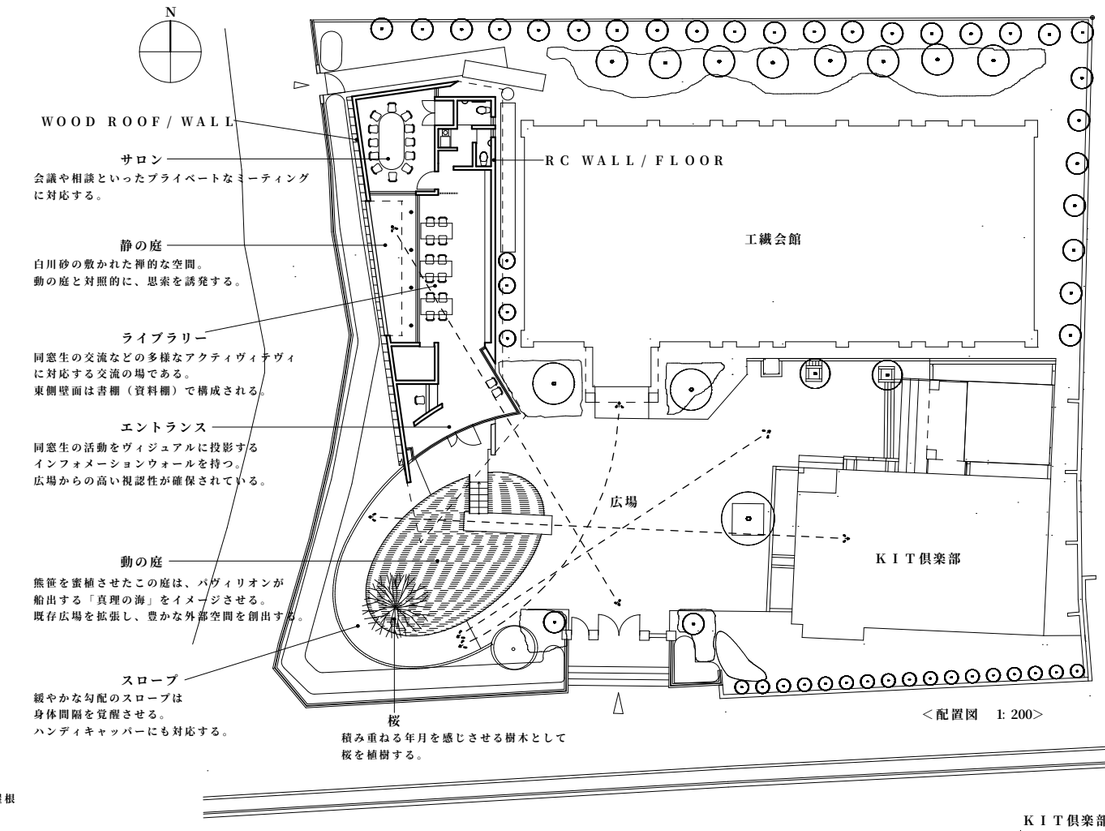
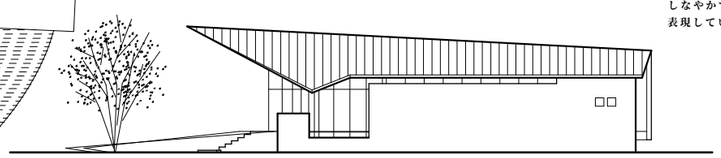


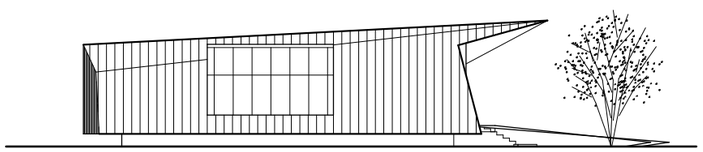
＜平面図　1: 100＞



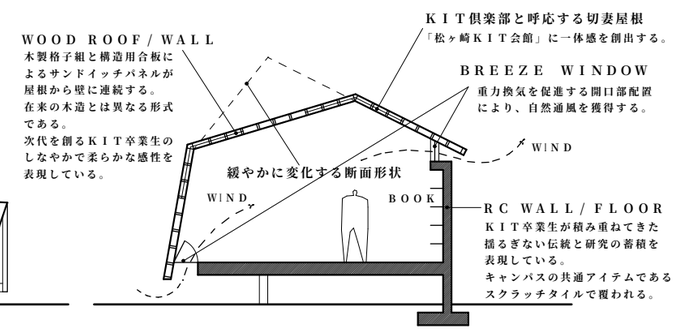
＜配置図　1: 200＞

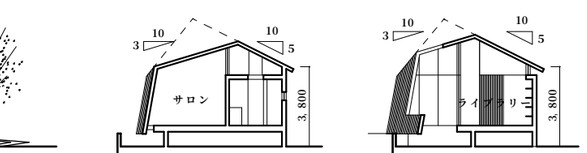


＜東立面図　1: 200＞



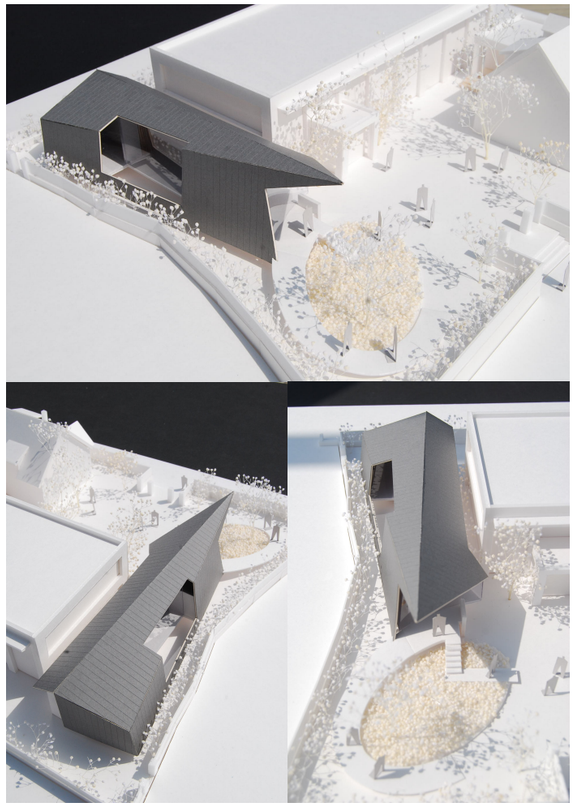
＜西立面図　1: 200＞





＜断面図　1: 200＞

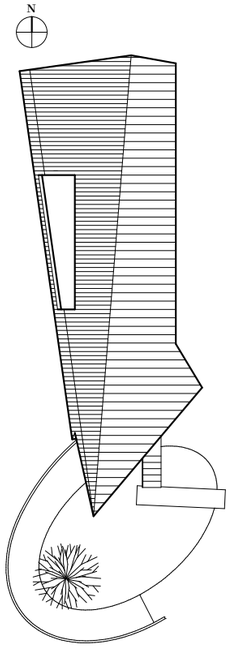
面積表	容積対象床面積：７９．８５９㎡	建築面積：　９１．９０４㎡	エントランス：１４．４１㎡	ライブラリー：２９．１６㎡	サロン：　１８．６４㎡	事務室：　３．９５㎡
敷地内建物合計容積対象床面積：　６６４．６３㎡			敷地内建物合計建築面積：　４４７．３９㎡		容積率：５６．１４％　＜８０％	建蔽率：３７．７９％＜５０％



■ 京都工芸繊維大学 新同窓会パヴィリオン・・・真理の海に船出する「智の方舟」

KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY
ALUMNI PAVILION

ART & TECHNOLOGY



＜屋根伏図　1: 200＞

この建築は次の三つのテーマのもとに構成される。

□ 京都工芸繊維大学の教育・研究理念の具現化

□ 新たな智の世界を育む刺激的な場所の創出

□ 次代を担う京都工芸繊維大学の新しいイメージの構築

上記の各テーマは、本計画案において下記の建築的操作により「智の方舟」として具現化される。

■鉄筋コンクリートと木による混構造

科学と芸術、右脳と左脳、理論と実践といった、二つの概念を融合する領域に、本学の特性がある。その二つの世界の融合を表すものとして、RC構造の壁／床と木構造の屋根／壁による混構造を提案する。連綿と続く本学の伝統や智の集積を大地に根差した力強いRCの構造体で表現し、未来に飛翔するクリエイティヴで軽やかなイメージを、木格子と構造用合板を一体化したシャープな木構造パネルで表現する。

■相互に補完しあう対概念としての二つの庭

身体と精神の双方が融合することで、新たな智の世界が開かれるものと考え、その二つの世界の関係性を、性格の異なる庭によって表現する。風に揺れる熊笹が密植される「動の庭」はスロープを伴うアプローチ空間を構成し、そこを歩く人の身体性を刺激する。一方、日の光を柔らかく反射する白川砂が敷かれた「静の庭」は、奥まった位置に配置され、打合せや会議等のアクティヴィティをサポートする。これらの外部空間が内部と一体となって機能することで、この建築はランドスケープと融合され、この場所に根付いたものとなる。

■サスティナビリティに配慮した開放性の高い空間構成

内部空間は断面形状が変化するワンルーム空間である。可能な限り自然通風を行うために、RCと木の二種類の構造体の間に通風口を設ける。開放的な構成をとりつつプライバシーの要求される会合にも対応するために、１２人程度のサロン（会議室）を設けている。斜めに走る屋根の稜線（棟）を内部空間にも現すことで徐々に天井形状と高さを変化させ、単一空間でありながら変化に富んだ多様な空間を創出する。